

信濃毎日新聞

号外

発行所 信濃毎日新聞社
長野本社
〒380-8546 長野市南県町657番地
電話(026) 受付236-3000
編集236-3111 販売236-3310
マーケティング(広告)236-3333
松本本社
〒390-8585 松本市中央2丁目20番2号
電話(0263) 代表32-1200
報道32-2830 販売32-2850
営業(広告)32-2860
©信濃毎日新聞社 2025年

購読のお申し込み

フリーダイヤル

0120-81-4341

信濃毎日新聞デジタル

<https://www.shinmai.co.jp>

北川氏 ノーベル賞

「多孔性材料」を開発

化学賞 「夢の吸着剤」期待



開発した多孔性材料のサンプルを持つ、北川進・京都大特別教授。2018年9月

北川 進氏(きたがわ・すすむ)1951年7月4日、京都市生まれ。74年京都大工学部卒。79年京都大大学院博士課程修了、工学博士。近畿大理工学部助教授などを経て、92年東京都立大理学部教授。98年京都大教授。2013年京都大高等研究院物質—細胞統合システム拠点長、17年京都大特別教授。08年独フンボルト賞、13年江崎玲於奈賞、16年日本学士院賞、17年藤原賞など受賞。11年紫綬褒章。74歳。

【ストックホルム共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは8日、2025年のノーベル化学賞を北川進京都大特別教授(74)ら3氏に授与すると発表した。授賞理由は「金属有機構造体の開発」。6日に生理学・医学賞に選ばれた坂口志文大阪大特任教授に続く受賞決定となった。

北川氏は、分子が自然と立体構造に組み上がる「自己組織化」の手法を研究。天然ガスなどの気体を、内部の規則正しく並んだ微小空間に貯蔵できる「多孔性材料」を開発した。大気から二酸化炭素(CO₂)だけを選んで回収するなど「夢の吸着剤」として環境分野などへの応用が期待されている。

日本のノーベル賞受賞は、個人では30人目、昨年平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(被団協)と合わせると31例目となった。化学賞は、19年に選ばれた吉野彰旭化成名誉フェロー(77)以来6年ぶり、9人目となる。

北川氏は近畿大助教授を務めていた1990年ごろ、金属イオンや有機化合物などの分子の「自己組織化」を研究。ジャングルジムのような構造の材料を合成することに成功した。

詳細は
本紙でこの号外は
信濃毎日新聞
デジタルから
印刷できます